

### 1. 授業科目と単位：

ユーザ工学 (○)講義 ( )演習 ( )実習 2 単位

### 2. 履修対象者：

(○)D1, (○) D2, (○)D3, (○)D4, ( )D5: (○)文化科学研究科, (○)総研大の全研究科, その他 (総研大以外からの聴講参加も歓迎する)

### 3. 授業担当教員：黒須正明

#### 担当教員との連絡 (e-mail、電話、FAX、研究室)：

質問は e-mail か e-mail で調整した時間の面談を歓迎する。(kurosu@nime.ac.jp、電話 043-298-3243、FAX 043-298-3243、メディア教育開発センター 研究棟 604 号室)

### 4. 授業実施期日時間：

授業は毎週定期的を実施するのではなく、月に一度、受講生諸君と日程調整をした上で(原則金曜日)、Soken Usability Day というイベントの形で実施する。これは 13:00-19:00 までの 6 時間を通して実施するもので、レクチャー、輪講、学生によるプレゼンテーションと討議など、多様な形式をとる。このイベントは夏期などを除き、通年で実施する。

### 5. 授業実施場所：

メディア教育開発センター研究棟 8 階、学生室セミナールーム

### 6. 履修条件、受講方法：

ユーザ工学は、認知心理学、人間工学、情報工学、デザインなどの諸科学の融合した分野である。その意味で、これらの諸分野についてはあらかじめ学部程度の知識を備えておくことが望ましい。なお、外国人受講者がいる場合には、基本的には英語を使用するので、英語の基礎能力は十分にあることが望ましい。

### 7. 授業内容の概要：

ユーザ工学は、目標達成という人間行動のあり方、ユーザとその目標達成を支援する人工物の関係、目標達成における諸問題の認識から出発し、ユーザビリティという概念やユーザビリティ工学という分野の発展の経緯を学び、ついで ISO9241-11 や ISO13407 によって規定された現在標準的なユーザビリティの概念の理解と、そのための設計プロセスを理解する必要がある。その上で、黒須の考えているユーザビリティ概念の拡張とライフサイクルプロセスの関係性を理解し、各プロセスにおいて利用される手法の理解へと進む。手法にはユーザ理解の手法、要求仕様作成の手法、段階的デザインの手法、評価の手法を含む。さらにユーザ工学を巡る諸問題についての理解を行う。

### 8. 授業の達成目標：

1. ユーザ工学が人間の目標達成を支援する人工物の設計や運用に関するものであることを理解すること。
2. ユーザビリティに関する概念を明確に理解し把握すること。
3. ユーザ工学における各種手法を自分で利用できるスキルを身につけること。
4. ユーザ工学の今後の課題について、自分なりの問題意識を持てるようになること。

## 9. 授業計画：

下記の内容を考えている。また黒須ゼミとの連動性も考慮して、ゼミ生のテーマに関するレビューを行うこともある。

- (1) 各自の状況においてユーザビリティの問題点を発見させる
- (2) なぜそのような問題が発生するかを考えさせ、人間の諸特性に関する理解が必要であることを理解させる
- (3) 心理学と人間工学についての最小限度の知識を学ばせる
- (4) 人間科学に関する各特性からどのような問題が発生しうるかを考えさせる
- (5) そうした人間に関する知識をどのようにして設計プロセスに含めることができるかを考えさせる
- (6) HCI の歴史について説明する
- (7) HCD の考え方や ISO13407 について説明する
- (8) 評価手法についての説明を行い、実システムの評価に適用させる
- (9) 上流プロセスについての説明と関連手法の説明を行う
- (10) どのようにして要求事項をまとめるべきかを理解させる
- (11) ペーパープロトタイプをつくり、ユーザビリティテストの実習を行わせる
- (12) 反復的設計の重要性について理解させる
- (13) ライフサイクルや長期的ユーザビリティの視点について理解させる
- (14) 多様な専門の関係者の協力がなぜ必要か、どのように推進すべきかを理解させる
- (15) 組織文化とユーザビリティの関係について考えさせ、状況変革のための方策を考えさせる

## 10. 使用参考書、参考文献：

次の書籍を基本テキストとする。

黒須正明、伊東昌子、時津倫子 1999 「ユーザ工学入門」 共立出版

以下は参考書籍である。

黒須正明、平沢尚毅、堀部保弘、三樹弘之 2001 「ISO13407 がわかる本」 オーム社

黒須正明編著 2003 「ユーザビリティテスト」 共立出版

スナイダー、C. 著、黒須正明監訳 2004 「ペーパープロトタイピング」 オーム社

人間生活工学研究センター 2005 「ワークショップ人間生活工学 第一巻 人にやさしいものづくりのための方法論」 丸善

人間生活工学研究センター 2005 「ワークショップ人間生活工学 第三巻 インタラクティブシステムのユーザビリティ」 丸善

西條剛央編著 2006 「ケミストリー人間科学」 北大路書房

西條剛央編著 2006 「構造構成主義のマトリックス」 北大路書房

## 11. 単位取得要件と成績評価基準：

Soken Usability Day における講義内容、あるいは討議内容に関連して、毎月一度レポートの提出を求め、その内容によって評価を行う。したがって、当然、出席状況は重要となる。

## 12. その他のコメント

特になし。